

1 自己評価及び外部評価結果



【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500189		
法人名	社会福祉法人 花巻東雲会		
事業所名	グループホームだんけ胡四王(日棟)		
所在地	岩手県花巻市胡四王一丁目15番地5		
自己評価作成日	令和2年8月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 恵まれた環境を生かす:近くに新花巻駅、市の重要文化財である熊谷家、宮沢賢治記念館、イギリス海岸などがあり、外出先となっている。
- 地域との関係:月2~3回地域の方が来所し、体操等利用者とはふれあう予定になっているが、現在はコロナ流行につき中止となっている。事業所の庭に賢治のゆかりの花壇がある。又、畑を作り、利用者で収穫物を収穫している。
- 医療との連携:近くの開業医の協力を得て看取りを10年以上継続している。今年は2名の看取りをした。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号		
訪問調査日	令和2年9月1日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新花巻駅前の良好な環境の一角にある落ち着いたつくりの建物である。2ユニットで職員全員が両ユニットを担当しており、発行新聞等での近況報告や利用者・家族の意向把握など、A・B両棟一体となった情報共有し介護計画に反映している。地域と繋がりがながら暮らせるよう、高齢者気晴らし会や近隣女性が集う場としてB棟の地域交流ルームを貸し出しているほか、熊谷家での神楽見学等地域に出向き、馴染みの機会を生み出している。地域の医療機関と緊密な連携を築き、今年も2件の看取りを行うなどターミナルケアの経験・意識が高い。身体拘束廃止宣言、新型コロナウイルス対応の文書化など、事業所の方針を内外に明示し、地域から一層の理解が得られるような意欲的な活動が今後も期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をA棟B棟それぞれの掲示板に掲示し、仕事前に唱和している。利用者の一日の生活の安全につなげている。 毎週月曜日はA、B棟合同での唱和。	「だんげ胡四王理念」として掲げ、A・Bユニット合同で毎週月曜日朝のミーティング時に職員全員で唱和し、グループホームの本来の趣旨の理解・共有を図っている。散歩の際の利用者との会話等を業務日誌に記録し、職員間で話し合う機会や勉強会を行い職員の意識付けにも努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	熊谷家、保育園の行事に参加している。利用者が作った作品等は施設内に展示し公開している。ただし、現在はコロナで行事は中止となっている。	地域の自主防災会に加入し防災連絡系統の下に入り、AED講習会の参加案内も頂いている。保育園等の年長児による利用者の肩たたき、B棟の地域交流ルームの地域開放による「地域サロンとしての気晴らし会・近隣女性達の金ママ会・絵手紙グループ」のほか、熊谷家での胡四王神楽等の見学訪問など、地域の一員として交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月2～3回地域の高齢者が当施設集まり、歌ったり、お茶するなど交流をしている。地域のボランティアの踊りを見て楽しんでいる。ただし、現在はコロナで中止している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の割合で、運営推進会議を開催し意見、要望等事業所運営に反映している。(居室によしづとりつけたこと)	ヒヤリ事故や身体拘束状況等を含め日常の支援状況を丁寧に報告している。他の施設の状況を聴くなど多様な意見交換を行い、加えて目標達成計画の評価も行っている。委員の提言により、避難誘導灯の設置や砂利道の舗装等を行っている。民生委員や地域住民代表のほか、勤務調整しながら職員1名も参加している。複数家族や自治会役員等の参加を今後の課題としている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時、包括支援センターの職員と意見交換している。市開催による認知症予防などについて意見交換した(地域の施設職員民生委員)	市の担当課や地域包括支援センターには、入退居報告や自立支援・成年後見の相談をしている。市職員が参加している運営推進会議の場でも、家族との連絡や支払い関係など、支援上の日常的課題も相談し、市・事業所間の情報共有がされている。花巻市認知症セミナーやケアマネージメント研修にも参加している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	独自の身体拘束廃止宣言を作成し掲示している。勉強会を行い職員全員で共有している。	運営推進会議の場を「身体拘束等適正化検討委員会」として効果的に活用し、事業所としての「身体拘束廃止宣言」も3年前に作成している。年2回の勉強会を開催するほか、スピーチロックに関連し、1ヵ月から2ヵ月で全員分の記録を振り返り、排便時の利用者の行動背景などについて検証している。夜間時を除き、A・B棟ともに玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝のミーティング、週1回の勉強会でヒヤリハットを用い虐待にならない様に喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について、研修に参加し職場に於いて、勉強会、ミーティングで説明し、利用者の権利を守るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約書に基づき、利用者家族に説明し理解を得、署名してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時運営規定に基づき説明している。同時に利用者、家族の要望を取り入れるようにしている。運営推進会議に利用者、家族代表が入っているため反映できる。	運営推進会議や家族来所時のほか、ボランティアの会の場で利用者・家族から意見・要望を聴いている。職員会議や勉強会で意見等を検討し、検討結果を家族に説明の上反映する仕組みが出来上がっている。「だんげ新聞」を年4回家族に送付し、毎月のお便りは、花見等の行事写真を入れた状況報告と併せて郵送している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議で話し合いを行っている。運営に関して意見が反映できるようにしている。(理事長、事務長、管理者同席)	理事長・事務長・管理者出席のもと、月1回ユニット合同職員会議を全員参加で開催し、体制や料金等の運営について職員が意見提案する機会としている。「記録者職員の机の配置、車いす対応体重計の設置」などを具体化しており、「車イス対応型車両導入」の提案について必要性等を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤勤務者の増員、夜勤専従者の雇用を図ると共に、介護職員処遇改善手当やキャリアパスの充実、働きながら介護福祉の資格取得の支援などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修を受けれるように色々に分かれて参加させている。パートでも施設内で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム協会に参加し情報の収集、交流に努めている。現在、施設見学・視察・交流会は、コロナで中止となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時家族、本人から話を伺い、要望・不安等に丁寧に耳を傾け、説明し理解を頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族と面談し、ゆっくり話をしながら、良い関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時アセスメント～ご本人の希望と必要性等により、サービス内容を検討し支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、行事食作り、誕生会、野菜の下ごしらえ、折り紙、絵手紙等作業を一緒にし、楽しみの時間作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な介護計画のほかに、都度の変化時や、情報等により、家族、ご本人に説明、意見調整しながら、介護計画に反映できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事・祭り・地域の運動会等への参加や外出に支援しています。また地域の友達の訪問があった際は場所を提供しています。ただし、現在はコロナで中止となっている。	通常は、隣接の市指定有形文化財「熊谷家」の神楽や花巻まつり、保育園運動会の見学など、地域と接点を持つようにしている。入居前の状況を把握し、利用者が参加していた地域のゲートボールを散歩の時に観戦したり、自宅周辺をドライブするなど、馴染みの人・場所との繋がりを支援している。地域住民との談笑ふれあいの機会になっている「知人・友人や近隣女性の集まり金ママ等」の来所を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでのテーブル設定や、気の合う同士の会話、散歩同行等、関係を深められるように配慮しサービス提供に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者への訪問や、家族からの情報等にも継続し関わりに努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意向を聞くように努め、また把握に努め、職員・家族と情報共有する。できる事や本人の意向については、ケアプラン等に反映するよう努めている。	センター方式の「私の姿と気持ちシート」を使い、わかりやすく説明をした上で、生活歴を踏まえながら、必ず本人の考えや意向を聴いて、不利益にならない意思決定の支援を心掛けている。意向の把握が困難な場合でも、何故家に帰りたいのかなど、一緒に活動する中で、表情から気持ちを理解する意識を職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時在宅ケアマネ、家族よりできるだけ聞き取りケース会議(センター方式)・勉強会で職員間で情報共有しできるだけ本人の思いに添えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・個別日誌・申し送りノート等で利用者の情報把握し、情報共有に努めている。 1日のケアについては、3人の日勤者で協議し、ケア内容を徹底するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議等で話し合い、介護計画の内容を職員間で共有しながらケアに取り組んでいる。また家族の面会時に本人の様子を伝え、要望を聞いている。	月2回定例カンファレンスを行い、3ヵ月に1回計画を見直している。日々の職員間の申し送りやモニタリング結果に基づき、計画の評価・見直し検討を行っている。散歩の途中で気づいた地域の子供達のこと、友人の来所時の話、好みの紅茶や衣類の選択など、利用者一人一人が、その人らしく地域で暮らし続けられるよう、本人や家族の想いを個別計画に記入し反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日業務日誌の記録し申し送りノートを用いて職員間で情報共有、実行している。改めた方が良いものは、話し合い、見直し、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の家族の要望や、行事、季節に合わせ、地域性に合わせ、要望に応えるようにしている。また突然の受診にも速やかに対応し家族に報告している。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、目の前に熊谷家があり、また近くには賢治記念館、童話村・保育園等有ります。地域の行事参加や、施設のホールを開放し、交流できるよう支援している。(神楽来訪)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応が困難になってきている現状です。出来るだけ本人、家族の要望に応えるよう努め受診同行している。 歯科診療は協力歯科の訪問診療も導入している	18人中9人は入居前のかかりつけ医に定期的に通院している。家族の高齢化等により職員の同行が増えて来ている。現在、家族の同意のもと、残りの9人は事業所の協力医療機関を受診している。家族・医師・職員の情報共有は「受診ノート」を活用し、健康状態の悪化や転倒リスク等の介助方法も話し合っている。訪問歯科診療は利用者の状態に応じて実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の変化に、看護師・ケアマネ・介護職員と細やかな情報共有し、早めの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サマリーの提出、入手で、早期に、適切な対応ができるように努めている。また入院期間中は医療連携室と連携して情報を共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と思われる時点で家族と話し合い、今後について決めている。終末期については入居時に説明し、その後段階に合わせて意思を確認している。協力医院の医師、看護師、介護職員、ケアマネが協議の上看取りを実施している。勉強会で今後おこること等勉強し情報を共有し終末期にそなえている。終了時には振り返り会議をしている。	家族には、事業所として可能な範囲の看取りは行う旨を入居時に説明し、重度化後は状況の変化等について毎日病院・家族と連絡を取り合っている。医師から家族に説明し、決定は家族が行い、状態の段階に合わせて家族の意思を確認している。協力医療機関の医師、非常勤の看護師、介護職員、ケアマネが協議を重ねながら、チームとして看取りを行っている。今年は2人の看取りを行い、これまで10人以上の看取りを経験している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故については勉強会を行い、職員の知識を深めている。対応、連絡についてはマニュアルを作成し参考になっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を利用者・全職員で行っている。管理権限者・防火管理者・消防士を交えて年1回訓練を行っている。年1回食糧、必需品(オムツ)を点検、補給している。	地区の自主防災組織に加入し、関係行事の案内も頂いている。二つのユニット合同で、春秋の年2回火災避難訓練を行い、うち1回は消防士5人を交えて消火活動訓練も行っている。夕方の散歩に合わせて避難通路口からの外出を体験する等の工夫をしているが、管理者は、さらに夜間の避難訓練を積み重ねると良いとしている。災害に備えて、3日分の水・缶詰・レトルト食品等を備蓄し、訓練前に必ず確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の人格を尊重し、年長者として扱い、それを態度や声掛けに反映し、プライバシーに配慮する様常に心がけている。	理念に掲げている「入居者の尊厳を守る」ことを念頭に、利用者本人のプライバシーを意識的に保護するよう職員全体で話し合っている。入浴時の介助は、同性介助としている。日常的な言葉遣いや支援の在るべき姿勢についても職員間で話し合っている。例えば、女性のトイレ使用の際には鍵をかける、体重測定やトイレ誘導時には大声で声掛けをしないなど、利用者本人の気持ちに配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の思い、希望を察知しその情報を職員間で共有している。穏やかな雰囲気になっているので、自己決定を尊重している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にするために、個々にあった支援について話し合い、理解、認識を深め対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれには気を配り、散髪は3か月に1回行い、外出、季節に適したおしゃれを楽しんでいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の収穫から、野菜の刻み、味付け、おやつ作り、配膳等、各自の好みや、能力に合わせて作業を行っている。また仲の良いそれぞれのグループで食事をしている。	栄養士資格者2名がおり、利用者の希望も聞きながらメニューを考え、きざみ食等食事形態にも配慮している。献立には、敷地内の畑で採れたトマト等の野菜も使い、テーブル・食器拭きや下膳等、職員・利用者が協働して作業をして食卓を囲んでいる。第2土曜日には誕生会を開くほか、年2回の外食は写真付きメニューで利用者から選んでもらっている。調理・食事・後片付けの一連のプロセスを通じて利用者との食事を楽しみたいが、調理が衛生管理上の課題としている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給を十分にする為、1人1人の好みによって、飲み物の種類を変えたり、嚥下の状態によりトロミをつけたりしている。また毎月食事量(間食の量)、献立の中身を個別に変えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実践を歯科医の指導で行っている。自分でできる利用者は声掛けを行い、利用者によって、介助を要する人には、歯や舌の状態を見ながら介助をし、記録を行っている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導やサインを見逃さないように、排泄の記録を読み援助している。	業務日誌や一人一人のサインで排泄を支援している。不安や羞恥心に配慮し、トイレの扉やカーテンを閉めて対応している。必要時には利用者とのコミュニケーションが取れるよう工夫しながら、必要な時に必要な支援が出来るようにしている。夜間は、3時間おきにトイレ誘導を行うなど、利用者個々の状況を見守りながら対応している。ひざの痛みが軽減しトイレの利用が可能となった方もおり、排泄困難な理由を一人一人丁寧に確認・記録し自立できるよう努めている。気持ちよく排泄できることを利用者と共有している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について勉強会をしている。水分補給、運動、食事の工夫、排便の記録を毎日行い、必要時下剤、摘便を行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望を聞いている。脱衣所との温度差を最小限にし、体調に注意している。プライバシーを重視し可能な限り最小の介助としている。	週2回午前中の中の入浴を基本とし、利用者の希望に沿った時間帯での入浴を行うため、1日3名ずつとしている。本人の意向により一人での利用もある。当日に入浴したくない利用者からは、その理由を聴くなどしている。ゆず湯、菖蒲湯等で季節感を出すことやBGMを流し職員の歌に合わせて歌いながら入浴を楽しむなど、不安感・負担感を軽減し、寛いで入浴できる工夫をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを作り、心身の安定を図り、良眠できるように援助している。 活動(散歩・歌・体操等)	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の管理を行い、1回毎に渡し、内服を確認している。1人1人の薬の効果、副作用、用量等一覧にし、貼り出している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時生活歴を話して聞く様になっている。1人1人が何をしたいのか、できるか理解し喜んで生活できるように取り組んでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、職員が連れ添いながら数人のグループで散歩に出かけるようにしている。帰宅願望のある方には2～3回と散歩している。	今年、新型コロナウイルス対応もあり外出が不足気味ではあるが、事業所近くの新花巻駅周辺を散歩出来るよう整備されており、通常は日常的に近くの神社まで20分程度グループで散歩している。荷ユニットともにウッドデッキがあり、日向ぼっこを楽しんでいる。希望者には買物に職員が同行し、ソフトクリームを食べたり、ドライブを楽しんだりしている。家族同行の受診の帰り道には、ちょっと寄り道して来ることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向を聞きながら、お小遣いの使い方について支援をしている。利用者は直接お金の管理はしていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取りたい方については、電話をかけてあげたり、本人からの伝言を伝えたり、手紙を出す等、本人の意向に沿った支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間のリビングの音・光・色・広さ・温度等に気をつかい、テーブル配置を考え、大人数も少人数で楽に過ごせる工夫をしている。	木造の落ち着いた建物で利用者に安心感を与える形、色合いの造りとなっている。日中、夜間ともに温度・湿度を一定に保つよう設定されている。利用者や外部の方の意見も伺いながら、めだかの水槽を置いたり塗り絵などの作品を飾りつけたりしている。新型コロナウイルス対応として、職員出勤時の玄関での対応や施設内清掃の実施、家族への連絡・面会手順や当日対応等の文書化を行い、利用者・家族及び職員がともに共用空間を始めとする事業所全体の感染防止対策を共有・徹底できるよう努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、椅子の並べ方等を工夫して、独りでも、友達同士でも好きなように過ごせるよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品や、好みの物などもわかり易い表示を取り入れ、手摺、掴り棒等に工夫し配置し生活への配慮がされている。 自分の机・椅子・テレビ等使い慣れたものを居室に置いたりしている。	各居室には、ベッド・エアコン・FFストーブ・クローゼットが備え付けられている。椅子やテレビなどを持ち込み、家族写真やぬいぐるみのほか、昔作った「ちぎり絵」を飾っている人もあり、それぞれに合った自分らしい部屋づくりをしている。皆が集まるホールにいる時間が長いが、疲れたので部屋に戻るといふ人もおり、利用者本人の意思で自由に部屋とホールを行き来している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、トイレの場所等、わかり易い表示を取り入れ、手摺、掴り棒等工夫して設置し生活への配慮がされている。			